

鳥取大学の AO 入試実施 10 年を振り返って

森川 修, 山田貴光, 小山直樹, 清水克哉 (鳥取大学)

鳥取大学の AO 入試は平成 25 年度入試で 10 年を迎えた。第 1 次選考における地方試験会場導入や農学部獣医学科での大学卒業者限定の入試など独自の方法を行ってきた。また、志願倍率は、初年度は 7 倍程度であったが、2 年目以降からは 5 倍前後と安定していた。さらに、AO 入試入学者の大学在学中での学業成績について、卒業時の GPA 平均値を調査したところ、AO 入試入学者は AO 入試以外の入学者と比較して有意差は認められなかった。

1 はじめに

鳥取大学では平成 14 年 4 月にアドミッションセンターが設置され、平成 16 年度入試から 4 学部のうち 3 学部で AO 入試を導入し、平成 25 年度入試で 10 年を迎えた。

当初は学部の教授会で AO 入試を導入しない決定をしたが、学長の強いリーダーシップの元、一転して実施へ変更した学部があるなど混乱が生じた。さらに、同一学部内で実施する学科と実施しない学科が混在するなど、準備不足が否めない状況もあった。

AO 入試の導入を受け、選考方法について各学部・学科で検討が行われ、鳥取大学の AO 入試は、学力試験を課さずに意欲を重視した選抜をする方針が紹介された。これは「詳細な書類審査と時間を掛けた丁寧な面接等を組み合わせることによって、受験生の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する方法(アドミッション・オフィス入試)」や「大学は、学力検査を行う場合には、原則として二月以降とし、学力検査を課す場合は、これに過度に重点を置いた選抜基準としないこと。」(文部科学省高等教育局長, 2003) の「第一 選抜方法」に書かれた文字をあまりにも厳格に解釈したことと、入試時期を推薦入試実施前の 9 ~ 10 月とすることがすでに決定しており、そのために大学入試センター試験等の学力試験を課すことができないと判断したと推測される。これに対し、特に工学部は、当初から意欲

を重視した選抜で学力試験を課さない場合に基礎学力の把握が難しいと懸念されていた。

その後、AO 入試が実施され、入学者が入学し、学年が進行するにつれて、AO 入試入学者に対して教員からいろんな話を聞いた。「うちの学科の AO 入試入学者は、学年 1 位になったので、AO 入試は良い制度だ。」や「講義などで積極的に発言し、クラスのリーダー的な存在になっている。」と肯定的に捉える教員もいれば「AO 入試で入った学生は全然勉強ができない。早く AO 入試を止めてしまいたい。」と否定的な教員などで賛否両論あった。これまで AO 入試入学者の在学時における成績調査は、全学的に行われておらず、個人の印象で語られる場面が多かった。

一方で、学力を重視した AO 入試を実施する大学での学生の成績追跡調査では、AO 入試入学者には成績良好者が多い(倉元・大津, 2011)、もしくは、有意差はない(坂本ほか, 2008; 池田, 2008) との報告がある。これらの調査は、意欲を重視した AO 入試の在り方にも大きな影響を及ぼすと考えられた。

そこで、本稿では、平成 25 年度入試で 10 年を迎える鳥取大学 AO 入試の特徴と AO 入試入学者の入学後の学力面における評価として、平成 16~21 年入学の 6 年間の AO 入試入学者の GPA¹⁾ 平均値と在籍 4 年間で卒業した割合を調査した結果について報告する。

表1 平成16～25年度鳥取大学AO入試の募集人員と志願者数

学部	学 科	16年		17年		18年		19年		20年	
		募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数
地域学部	地域政策学科	2	30	5	27	5	21	7	30	7	30
	地域教育学科	4	21	5	54	5	40	5	26	5	30
	地域文化学科	2	18	2	10	4	12	4	10	4	16
	地域環境学科					5	8	5	14	5	11
	計	8	69	12	91	19	81	21	80	21	87
工学部	機械工学科	2	13	2	11	2	11	2	16		
	知能情報工学科	2	12	2	7	2	5	2	23		
	電気電子工学科	2	8	2	7	5	13	5	22		
	物質工学科	2	5	2	2						
	生物応用工学科	2	6	2	9	4	8	4	16	4	10
	土木工学科	2	8	3	6	3	6	3	9	3	12
	社会開発システム工学科	2	5	2	2	5	11	5	5	5	11
	応用数理工学科	2	0	2	12	2	8	2	5	2	8
計	16	57	17	56	23	62	23	96	14	41	
農学部	生物資源環境学科	5	65	5	44	10	70	15	87	16	73
	獣医学科	2	31	2	18	2	36	2	63	2	42
	計	7	96	7	62	12	106	17	150	18	115
総 計		31	222	36	209	54	249	61	326	53	243
志 願 倍 率		7.16		5.81		4.61		5.34		4.58	

学部	学 科	21年		22年		23年		24年		25年	
		募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数
地域学部	地域政策学科	6	28	6	27	6	31	6	29	6	18
	地域教育学科	4	32	4	28	4	41	4	31	4	26
	地域文化学科	4	20	4	8	4	11	4	17	4	15
	地域環境学科	5	17	5	24	5	10	5	12	5	6
	計	19	97	19	87	19	93	19	89	19	65
工学部	生物応用工学科	4	7	2	15						
	土木工学科	3	4	3	15						
	社会開発システム工学科	5	13	5	12	5	5	5	11	5	14
	応用数理工学科	2	4	2	9						
計	14	28	12	51	5	5	5	11	5	14	
農学部	生物資源環境学科	16	93	16	97	14	64	14	58	14	66
	獣医学科	2	37	2	39	2	37	2	33	2	29
	計	18	130	18	136	16	101	16	91	16	95
総 計		51	255	49	274	40	199	40	191	40	174
志 願 倍 率		5.00		5.59		4.98		4.84		4.35	

*表中の塗りつぶしは、募集をしていない。

2 AO 入試の募集人員と志願者数

平成 16 年度入試から医学部を除く 3 学部で AO 入試を導入したが、そのすべての学科で実施しておらず、地域学部地域環境学科だけが、当初の 2 年間は実施を見送った。表 1 の募集人員と志願者数から、毎年のように募集人員を変更してきた(表中のグレーは前年度と募集人員を変更、表中の塗りつぶしは募集をしていない)。初めの 5 年間は募集人員を増やしてきたが、それ以降に増やす学科はなかった。また、工学部では、物質工学科のように導入後、わずか 2 年で取り止めをする学科もあり、5 年後に半数の学科、8 年後にはわずか 1 学科の実施にとどまった。もっとも募集人員の多かった平成 19 年度入試では、全学定員の 5.5% (61 名) が AO 入試の割合であったが、平成 25 年度入試では 40 名と全学定員の 3.5% である。

志願倍率は、初年度が 7 倍程度であったが、2 年目以降からは 5 倍前後と安定していた。

3 鳥取大学 AO 入試の特徴

3.1 第 1 次選考の地方試験実施

鳥取大学の AO 入試は、導入当初から第 1 次選考と第 2 次選考を実施しているが、平成 16 年度入試の第 1 次選考は、書類選考のみで実施した。

ところが、「詳細な書類審査と時間を掛けた丁寧な面接等を組み合わせることによって、受験生の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する」という AO 入試の趣旨から考えると、書類審査だけではなく、面接を全員に行うことが望ましいと考え、平成 17 年度入試の第 1 次選考から、農学部獣医学科を除き²⁾、書類審査と個人面接の両方を行うこととした。

しかし、受験のために 2 度も鳥取を訪れることは受験生の負担となる。そこで、受験生の所在地になるべく近い場所で第 1 次選考(面接)の実施することを検討した。前年度受験生の所在地と交通の利便性から判断し、鳥取のほか

東京、大阪、岡山、福岡の合計 5 会場で実施した(中村・福島, 2006)。それ以降も引き続き 5 会場で実施している。

平成 17 年度入試において、国立大学で地方試験を実施している例はきわめて少なく、一般入試前期日程で 4 大学(秋田、群馬、信州、鹿児島)が東京会場で実施していたが、AO 入試とはいえ、東京以外にも会場を設けていたことは特筆すべきことであった。また、「第 1 期中期目標の達成状況に関する評価結果」(平成 21 年 3 月独立行政法人大学評価・学位授与機構)の中の優れた点に取り上げ、高く評価されている。

3.2 農学部獣医学科の出願資格

農学部獣医学科の出願資格は他学科と異なっていた。初年度は、大学在学者、もしくは、学士取得者(翌年 3 月取得見込み者も含む)、2 年目以降から学士取得者のみを対象としており、しかも、2 年次以降に編入学でなく 1 年次へ入学する。導入の経緯は不明であるが、学士取得者のみを対象にしていることは、きわめてユニークであったが、平成 25 年 4 月より岐阜大学と共同獣医学科を設置するため、平成 25 年度入試を最後に取り止めた。

3.3 工学部の出願要件(エントリー方式)

初年度(平成 16 年度)の入試において、工学部だけが AO 入試の出願要件として 8 月上旬に行われるオープンキャンパスへの参加をエントリーとして義務付けた。これは意欲をみることに、初年度であるために志願者数を把握する目的で行った。

しかし、工学部の志願倍率が 4 倍以下と他の 2 学部よりも低く、また、1 学科では志願者が 0 名であった。AO 入試初年度で、告知が十分に行き渡らなかったこと、高校総体などの高校行事と重なるなど、高校側からの意見もあり、わずか 1 年間でエントリー方式は取り止めた(中村・福島, 2006)。

4 AO 入試入学者の大学在学時の学業成績

平成 25 年 3 月に AO 入試入学者第 6 期生(平成 21 年度入学者)が卒業した。AO 入試入学

表 2 地域学部の入学者 GPA 平均値

入学 年度	AO 入試			AO 入試以外		
	GPA	σ	<i>N</i>	GPA	σ	<i>N</i>
16	2.24	0.610	16	2.47	0.733	185
17	2.49	0.733	16	2.46	0.713	185
18	2.34	0.843	18	2.66	0.740	194
19	2.92	0.442	20	2.60**	0.736	179
20	2.65	0.597	22	2.58	0.688	182
21	2.79	0.587	25	2.66	0.695	176

σ :標準偏差, *N*:入学者数,
AO との有意差 **: $p < 0.01$

表 3 工学部の入学者 GPA 平均値

入学 年度	AO 入試			AO 入試以外		
	GPA	σ	<i>N</i>	GPA	σ	<i>N</i>
16	1.58	0.699	19	1.95*	0.741	450
17	1.66	0.837	23	1.93	0.801	465
18	1.78	0.747	25	1.87	0.806	471
19	1.75	0.727	21	2.01	0.794	453
20	1.68	0.683	12	2.06	0.791	485
21	1.81	0.553	10	1.92	0.791	484

σ :標準偏差, *N*:入学者数,
AO との有意差 *: $p < 0.05$

表 4 農学部の入学者 GPA 平均値

入学 年度	AO 入試			AO 入試以外		
	GPA	σ	<i>N</i>	GPA	σ	<i>N</i>
16	2.61	0.608	5	2.32	0.641	207
17	2.30	0.867	8	2.23	0.710	199
18	1.87	0.699	16	2.28*	0.741	206
19	2.53	0.662	19	2.33	0.768	191
20	1.85	0.878	16	2.25	0.796	184
21	2.00	0.733	18	2.29	0.663	192

σ :標準偏差, *N*:入学者数,
AO との有意差 *: $p < 0.05$

者の大学在学中の学業成績を判断する材料として、AO 入試と AO 入試以外の入学者の 2 群に分け、平成 16~21 年度入学者の卒業時の GPA 平均値を調査した。

なお、平成 25 年 3 月の時点で未卒業者は、平成 24 年度終了時の値を用いた。また、農学部獣医学科については、他学科と AO 入試の出願資格が異なり、入学者は大学卒業者であるため、今回のデータに含めなかった。

表 2 に地域学部、表 3 に工学部、表 4 に農学部を入学年度でまとめた。また、学部内の各入学年度における、AO 入試入学者と AO 入試以外の入学者間の有意差について t 検定を用いて検証したところ、有意差が認められた ($p < 0.05$) のは、地域学部の平成 19 年度、工学部の平成 16 年度、農学部の平成 18 年度であった。

いずれの学部でも 6 年間で 1 年間だけが入学年度により有意差が認められたものの、AO 入試入学者は、AO 入試以外の入学者と比較して大学在学中の学業成績に有意差はないと結論される。

5 AO 入試入学者の在籍 4 年間での卒業率

平成 16~21 年度 AO 入試入学者の在籍 4 年間で卒業した割合(以下、4 年間卒業率とする)を表 6 のように学部別にまとめた。なお、留学によって留年した場合は、在籍期間から除いてカウントしている。

他の入試区分と 4 年間卒業率の比較をしていないため、詳細な検討はできない。そこで、同じ学部内で各年度の AO 入試入学者 GPA 平均値と 4 年間卒業率について検証したところ、いずれも高い相関が認められた(相関係数:地域学部 0.939, 工学部 0.630, 農学部 0.867, いずれも 0.1%水準で有意)。

また、平成 21 年度入学者は、4 年間卒業率が 90%を超え、それ以前より改善がみられた。これは、AO 入試入学者の入学前教育の方法を変えたこと(森川ら, 2011: 森川, 2012)や

表 6 AO 入試入学者の 4 年間卒業率 (%)

入学 年度	計	学部		
		地域	工	農
16	63 (25/40)	75 (12/16)	42 (8/19)	100 (5/5)
17	70 (33/47)	81 (13/16)	57 (13/23)	88 (7/8)
18	63 (37/59)	83 (15/18)	44 (11/25)	69 (11/16)
19	83 (50/60)	95 (19/20)	71 (15/21)	84 (16/19)
20	70 (35/50)	91 (20/22)	42 (5/12)	63 (10/16)
21	91 (48/53)	96 (24/25)	90 (9/10)	83 (15/18)
計	74 (228/309)	88 (103/117)	55 (61/110)	78 (64/82)

*カッコ内は、4 年間での卒業生数/入学者数

志願書に英語の資格を記載する欄を設けて、基礎学力の把握に努めたことなどが要因として挙げられる。しかし、単年度での結果であるため、平成 22 年度入学者以降の推移を注目したい。

6 まとめ

今回行った平成 16~21 年入学者の 6 年間での調査から、鳥取大学の AO 入試入学者全体での大学在学中の成績を GPA 平均値で調査したところ、AO 入試入学者は、AO 入試以外の入学者と比較して学力面では有意差はないと結論される。

しかし、これまで GPA 平均値に関して統計的な考察が行われておらず、学内では GPA 平均値で議論されてきた。

表 4 から工学部では、導入初年次と 2 年目に AO 入試以外の入学者と比べて AO 入試入学者の GPA 平均値が 0.4 近く悪いという結果が得られた。この値は在学中に得られていない

が、工学部所属の教員は、授業等で AO 入試入学者の学力不足を感じていたと推測される。そのため、AO 入試の募集を停止する学科が増え、平成 20 年度入試から全 8 学科中 4 学科での実施、平成 23 年度入試からはわずか 1 学科の実施となった。

また、農学部も AO 入試の募集人員を増やし始めた平成 18 年度入試入学者が、AO 入試以外の入学者の間に有意差があり、さらに平成 20 年度入試入学者以降の GPA 平均値が悪くなっていた。そのため、平成 23 年度入試から定員を削減している。

統計的手法により、AO 入試入学者は、AO 入試以外の入学者と比較して学力面に差がないことについて、まず学内での共通理解が必要である。そして、GPA 平均値だけを指標として AO 入試の定員を削減することのないよう努め、最低限の基礎学力を担保しつつ、意欲を持った受験生の確保が、今後の鳥取大学の AO 入試に一番求められているものと考えられる。

7. 謝辞

今回の発表の一部は、平成 23 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) (課題番号 23501148) により実施された。

注

1) 鳥取大学における GPA (Grade Point Average) の計算法

鳥取大学では成績を A, B, C, D, F ランク法で評価している。100 点満点で A は 100~90 点, B は 89~80 点, C は 79~70 点, D は 69~60 点, F は 59 点以下である。A, B, C, D を合格点, F を不可とし、このランクに A は 4, B は 3, C は 2, D は 1, F および不履修は 0 のそれぞれ数値 GP (Grade Point) を与えて履修科目の GP にその科目の単位数をかけ、その総和を履修登録科目の総単位数で除して GPA を算出する。

$$\text{GPA} = \frac{(A \times 4) + (B \times 3) + (C \times 2) + (D \times 1)}{\text{受講登録単位数}}$$

- 2) 農学部獣医学科の志願者には社会人等が多いため、受験にかかる時間的負担を軽減するための配慮である。

参考文献

- 池田文人(2008). 「北海道大学におけるAO入学者の学業成績—厳格な成績評価に基づくGPA導入に伴う追跡調査—」『平成20年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会(第3回)研究発表予稿集』, 93-96.
- 倉元直樹・大津起夫(2011), 「追跡調査に基づく東北大学AO入試の評価」『大学入試研究ジャーナル』, 21, 39-48.
- 文部科学省高等教育局長(2003). 『平成16年度大学入学者選抜実施要項について(通知)』.
- 森川 修(2012). 「入学前教育:事例集」日本リメディアル教育学会 監修『大学における学習支援への挑戦—リメディアル教育の現状と課題—』, ナカニシヤ出版, 88-89.
- 森川 修・三宅貴也・小山直樹・清水克哉(2011). 「学力試験を課さない入試区分合格者へのe-Learningを用いた入学前教育の実践」『大学入試研究ジャーナル』, 21, 231-236.
- 中村肖三・福島真司(2006). 「進化するAO入試—“青い鳥”を求めて—」『大学入試研究ジャーナル』, 16, 85-90.
- 坂本尚志・藤尾 均・谷本光穂・内藤 永・渡部 剛・木村昭治・塩野 寛(2008). AO入試とその他の入試区分学生の医学科臨床実習における評価の比較」『大学入試研究ジャーナル』, 18, 101-110.